



## 明日の佐渡へ・・・勝負の年

佐渡市議会議長 金 光 英 晴

新年、明けましておめでとうござい  
ます。年頭にあたり一言、所信を述べさ  
せていただきます。

昨年4月に議長に就任し、すでに9  
か月が経ちました。この間、山積する市  
政の難題を常に市民目線から、批判と  
監視に努めてまいりました。地方自治  
が二元代表制から成り立っていること  
から、議長という重責を肌にかけてお  
ります。

さて、昨年の出来事では、離島のハン  
ディキャップを痛感させられた、佐渡  
汽船の「おおさど丸」が長期欠航する  
事件がありました。佐渡汽船のずさん  
な危機管理体制が最大の原因であり、  
佐渡の経済は大打撃を受けました。特  
に、観光、帰省のピーク時ということも  
あり佐渡のイメージに大きな汚点を残  
しました。このことで我々は、長く県の  
第三セクターとして運営されてきた佐  
渡汽船がクシャミをすると佐渡の経済  
や市民生活が大打撃を受けることに気  
付かされました。島民の足確保、物流  
の確保等、市民が安心して日々の生活  
を送れるように、市が佐渡汽船の経営  
に関与すべきと感しています。

また、昨年の2月県会において、佐渡  
〜羽田空路開設の航空会社設立の議案  
が否決されました。現空港で空路を開  
設しても、座席数に制約があり赤字が  
大きく、財政負担に耐えられないこと  
がその理由でしたが、佐渡空港2千メ  
ートル化には大多数の県会議員が理解  
を示してくれました。その後、執行部は

地権者同意の取得に努力し、その結果  
を11月末に県に報告をし、県の対応を  
待っているところです。

離島佐渡にとって航路、空路はまさ  
にライフラインであると共に、交流人  
口の増加には欠かせないものでありま  
す。また、災害、有事の際には、航路、  
空路に頼るしか方法がない離島佐渡に  
おいては、その整備は急がなければな  
りません。

合併をして7年を終えようとしていま  
す。人口が毎年千人以上も減り続くこ  
とに歯止めが掛からず、経済の衰退と  
雇用状況の悪化によりさらに厳しい状  
態が予想される中、生産者が生産に見  
合った収入が得られる仕組み作りや、  
雇用の拡大が喫緊の課題であります。  
幸いに昨年、佐渡金銀山遺跡がユネス  
コの世界遺産暫定リストに掲載されま  
した。いままでも取り組んできた施策を  
どう生かしていくのか、また、佐渡の経  
済、雇用に関わる重要な課題として、  
佐渡の優れた物産に、どう付加価値を  
付けて、どう流通に繋げ、市民の所得  
に反映させられるのが、問われています。

今年はその実現に向けて踏み出さ  
なければいけない正念場の年でありま  
す。ぜひ、市民の皆さまのご支援とご理  
解をいただきますようお願いいたしま  
す。

最後に、今年一年が市民の皆さまに  
とって幸多き年となりますよう祈念し  
年頭のあいさつとさせていただきます。

